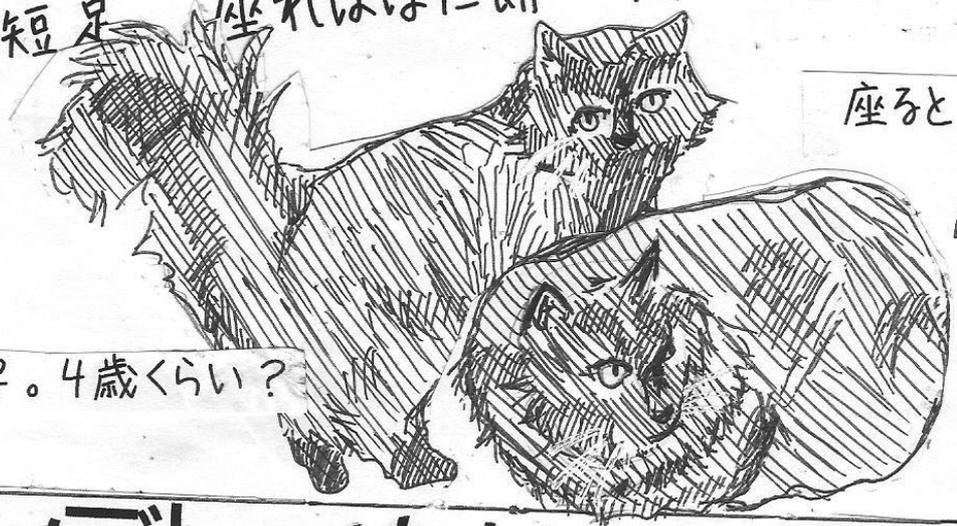


昔はツン・デレと呼ばれていた。
でも両方でれになってしまったので今はもじゃ・もじゃと呼ばれている。
1匹で、もじゃ。2匹でもじゃもじゃ。

廊下を歩いているとよく足下にすり寄ってくる。
が、なでるとひっかいてくる。
つまり、両方ともツンデレなのである。

黒猫TWINS。見分けがつかない。
が、2匹同時に見かけることは殆どないので問題無い。
見分ける方法は尻尾、らしいが...?

「立てば短足 座ればぼた餅 走る姿は豆ダヌキ」



座ると巨大。

両方♀。4歳くらい?

ツンデレ / もじゃもじゃ

しっぽがふっさふさ。
毛並みがとても長い。 南寮 ~ 中寮でよく見かける。
中寮裏でよく日向ぼっこをしている。

ずんぐりむっくりしている。
両方、真っ黒。目は黄色。

吉田寮木の罫鑑

文と絵: JS こねこねこねこね

吉田寮の建替え・補修をめぐる問題について

文責:T

入寮を考えている皆さんのなかには、吉田寮のサイトや新聞等のメディアですでにご存知の方も多いと思いますが、現在吉田寮は吉田寮の新棟建設及び現在の吉田寮の建物の補修・建替えについて京都大学当局（以下「当局」）と交渉を行っています。ここでは、この交渉に至るまでの歴史的な経緯を説明したいと思います。

1、在寮期限闘争

現在行われている吉田寮の補修・建替えをめぐる議論は、80年代にまでさかのぼります。80年代に吉田寮は当局から廃寮化を迫られました。当時の吉田寮生は当局の不当な一方的通達に抗議し、吉田寮を存続させる運動を行いました。吉田寮ではこれを「在寮期限闘争」（以下「在期」）と呼んでいます。82年に端を発した「在期」は89年に終結を迎えますが、それに当たって吉田寮と当局の間でその後の吉田寮の運営のあり方などを確認する確約書（書面での約束、当局の責任ある立場の人間がサインをする）を交わしました。吉田寮の自治運営を当局に認めさせたり、入退寮権を吉田寮自治会が持つことを確認するなど、この確約書はその後の吉田寮自治会と当局の関係性を規定する上での重要な約束になりました。そして、この確約の一項目として、吉田寮の建替えを当局に約束させるものがありました。これが現在の補修・建替えの議論の原点であるといえるでしょう。ただし、このような確約を結んだからといって、すぐに建替えが始まるわけではありませんでした。この確約は当局の学生担当の責任者（98年より前は学生部長、それ以降は副学長）が交代するたびに引き継がせてきましたが、実際にはいつまでたっても建替えに着手されることはありませんでした。

2、大規模補修案

転機が訪れたのは、2004年でした。建替えが先延ばしになるなか、年を経るごとに吉田寮は劣化していきます。当局も雨漏り、床板の取替えなど場当たりの補修には多少の予算は出してきましたが、根本的な解決に至る補修は行ってきませんでした。そこで、吉田寮の補修

による維持について考える「補修特別委員会」(寮自治会内の組織ですが寮外生も参加していました)が結成され活動を開始し(この委員会の結成自体は04年以前です)、そこが吉田寮の大規模補修について提案しました。大規模補修とは、それまで当局が行ってきた場当たり的な補修のようなものではなく、土台の入れ替えをしたり、壁の強度を強化したりといった、10年、20年あるいはそれ以上のスパンで住んでいける建物にするための抜本的な補修のことです。補修特別委員会は木造建築に詳しい京都の工務店とコネクションをつくり、そのような大規模補修がそもそも可能なのか、そして可能であるのなら見積もりはいくらくらいになるのかを調査しました。そして、6900万円ほどの予算で大規模補修が可能であると見積もりが出されました。当時の吉田寮は非常に大きな予算を必要で、いつまでたっても実現される見込みのない建替えより、予算も安く抑えられ、現に木造建築に詳しい工務店からお墨付きを得ている大規模補修を当局に提案していく方が実現可能性が高いであろうと考え、この大規模補修を提案する方針を採用することにしました。

そして、2005年には大規模補修のための耐震調査と設計図制作に1500万ほどの予算がつけられ、大規模補修に向けた第一歩に着手されました。大規模補修は、食堂、北寮、中寮、南寮とそれぞれ分けて順に行われる予定でしたので、吉田寮自治会としても、それに対応できるような部屋割りにしたり、居室棟の補修中は居室が手狭になるので退寮者をつのったりとできる限りの対応をとって大規模補修に備えました。しかし、工事の方にはその後予算がつけられることはありませんでした。どうして予算がつけられなかったのか、どこの部局がその予算を承認しなかったなど、学生部職員に何度もたずね、調べさせたりもしましたが、結局明瞭な答えは返ってこず、その辺りのことはいまだにはっきりとは分かっていません。

3、建替え騒動

すると、その後当局は突如手のひらを返して、建替えを提案してきました。しかし、その間一年近く大規模補修のための体制作りを力を入れてきた吉田寮自治会としては、大規模補修という基本路線は変えるつもりはありませんでした。大規模補修はすでに設計までできていたし、部屋割りなどの受け入れ態勢も万全に整っており、またお金のかけ方からしても1500万円がすでに使用されており、大規模補修の方が明らかに軌道に乗っていたのです。そのときの当局の建替え案は寮費アップは避けられないものでしたし、何より建物の構造などの肝心な部分はそれまで一切協議など持ったことも無かったので当然のことながら全くの白紙でした。あまりにも具体性にかける提案であったので、吉田寮自治会としても実現可能性のあるものとしてその提案を受け取らなかったし、そもそもそれまで協力して進めてきた大規模補修案を突如一蹴してしまう当局の姿勢はあまりにも礼を失したものであるといわざるを得ませんでした。

そして、05年の10月にひとつの騒動がおきました。学生部職員が突然「2週間後に建替えの予算がつく。吉田寮自治会としても承認してくれ。これを逃すともう予算がつかない可能性が高い」ということをいつてきたのです。建物の構造も決まっていない、寮費が上がる、水光熱費についてどうするか具体的に決まっていない、そんな全く具体的なことが決まっていない提案に2週間でyesかnoか答えろといつてきたのです。しかも「これを逃すともう予算がつかない可能性が高い」という脅し文句つきで。本来なら時間が無いから、もう少し時間をかけて話し合っていこうとかいう話になるところですが、この脅し文句ゆえに吉田寮自治会としては無理にでも議論の土俵に上がらざるを得ませんでした。また、予算がつくのなら、準備が万全で、より安い金額で済むはずの補修にお金をかけたほうが良いだろうということも当然ながら考え、当局に提案しましたが、「学内のコンセンサスが得られない」というなんだかよく分からない理由で断られました。「学内」って具体的に誰？ どうしてコンセンサスが得られないの？ といった質問には具体的な返答はありませんでした。この間、吉田寮内は混乱しました。日夜会議が開催され、「これこれこういう条件だったら建替えでもOKだ」、「そもそも大規模補修でやってたんだからこの話に乗る必要はない」、「話に乗らなかったら吉田寮は新しい建物が要らないと思われてしまう」などなど…。様々な意見が飛び交い議論は錯綜し、多くの寮生が疲弊していきました。そして、予算承認会議がある当日をむかえ、吉田寮自治会の意思を示すための副学長との話し合いにのぞみました。すると、そこでは大きなサプライズが吉田寮生を待ち受けていました。なんと、冒頭に副学長が「私は補修でいいと思っています」と言つたのです。当局内でも吉田寮は建替えということでは一致しているわけではなく、この提案は学生部職員のスタンドプレイにすぎなかつたのです(そのときの当局内の意思疎通がどうなつていたのかはわからないし、今当時の学生部職員に話を聞けば本当は副学長の方が悪かつたのだとか色々言い分はあるのかもしれませんが、少なくとも吉田寮にはこのようにしか見えませんでした)。話し合いはとんだ茶番に終わりました。そして、この間のとてつもない疲労感だけがなんとなく寮内に残り続け、その後09年までずっと補修・建替えの議論は停滞し続けたままでした。

4、現在の補修・建替え交渉

吉田寮内での補修・建替えの議論が停滞しているなか、09年に当局から吉田南キャンパスの南区域(吉田寮がある辺の区域)の再整備計画が提案されました。その計画によれば、焼跡(吉田寮の東側にある空き地、もともと吉田寮食堂の一部とサークル棟があつたが96年に火事で消失した)に吉田寮新棟(「A棟」と呼んでいる)を建設し、現吉田寮棟を建替えるというものでした。再び吉田寮をどうするか議論が当局との間ではじめられました。しかし、今回も05年ほどではないにしろ09年の6月頭と予算の期限が差し迫つていました。そこで、A棟の議論と現吉田寮を補修するのか建替えにするのか議論は分けて行い、まずはA棟の議論を片付けることで当局と合意しました。しかし、また今回も予算はつかずじまいでした。ただ

し、その後も当局には他の予算のあてがあるということで議論は継続することになりました。この際、A棟の議論と現吉田寮の議論を同時に行うのはあまりに煩雑だということで、A棟の議論を先に片付けてから現吉田寮の議論を行うという路線は踏襲していきました。

ということで現在は、現吉田寮をどうするかはいったん置いておいて、A棟について吉田寮自治会は大学当局と交渉を行っています。この間の議論でも当局は何度も意見を翻すなど、相変わらず議論を混乱に導く傾向にあります。何とか交渉を継続して持つことができています。今は主に、寮費、水光熱費、食堂の問題が大きなトピックとして交渉の議題にあがっています。寮費、水光熱費は以下にやすく抑えられるか、また食堂は日々多くの吉田寮生やサークルの活動場所として利用されている場所であり、いかにその食堂を残したまま十分な大きさのA棟を建設することができるかが問題となっています。

この補修建替えの件が入寮に関して影響を与えるのではないかと不安を抱いている方も、もしかしたらいるかもしれないので最後に簡単に断っておきますと、今回の話が入寮に関して影響することは今のところは全くありません。さしあたりはA棟の議論のみを行っており、これから予算がついて着工ということになると2、3年スパンの話になります。そうすると、その後の現吉田寮のことが決着を見るのは今から5、6年(あるいはもっとか?)スパンの話になってきます。この点に関してはご安心ください。

BUNKABU 紹介

文責:成り上がり文化部長

どーも、こんにちは。弱小専門部であるともつばらの噂の文化部です。もうこの際専門部であることも放棄して『文化部から劇団『BUNKABU』へと生まれ変わってしまえばいいんじゃないかと最近考え始めました。というわけで、文化部内の各局は以下のように生まれ変わります。こんなかんじでどうよ。

< before >

催事局 祭生のイベント活動を支援します。

食堂局 演劇やライブ活動、その他いろいろな目的で人が集まる多目的スペース『吉田寮食堂』。その管理に携わっています。

電算局 文化部内にあるパソコンやプリンターなどを管理しています。

意匠局 ペンキやハケ、立て看板などの資材を管理しています。

情報局 寮にまつわるいろいろな情報を収集し保存しています。しているはず。

新聞局 『半年に一回』新聞を発行します。いや…そんなわけねーだろ。仕事しろ。

↓↓↓

< after >

催事局 プロデューサーです。予算についてゴニョゴニョします。

食堂局 主にハコ(劇場)となる吉田寮食堂をキョメキョメしています。舞台監督も務めます。

電算局 音響照明を又も又も扱います。

意匠局 舞台美術 宣伝ビラ、HPのデザインなどを担当します。

情報局 宣伝を一手に引き受けます。

新聞局 ビラ以外に広報として、半年に一回(で OK な)新聞を発行します。

…いやいやいや。ダメ。ごめんなさいらだの妄想です。

そもそも弱小専門部って単に情報局と新聞局が仕事しないからだからね。他の局はちゃんと仕事してるから。

…僕のこの妄想が実現しないためにも、やる気のある方、待ってます。逆にやる気さえあれば、かなり面白いことができるとは思いますヨ。文化部って。

厚生部概説

文責：厚生部長

皆サンコンニチハ。厚生部ノ時間ガヤッテ参リマシタ。厚生部ノ主タル仕事ハ、寮生ノ生活環境ヲ整エル事ニアルト僕ハ考エテイマス。局・係ノ名前ヲ拳ゲテミルト、

衛生局・消防局・清掃局・石鹼局・備品物品係・補修局・リサイクル局・薬品係（五十音順）

トナッテイマス。ドウデショウカ。名ハ体ヲ表ストハ正ニコノ事。

×局・係 ⇔ ×ヲ管理・補充・促進スル係

ト云ウ厚生部定理ヲ用イルト、業務内容ガ容易ニ分カルデショウ。紙面ノ都合上、詳細ハ読者ノ更ナル勉強ニ譲リマス。例外トシテ、衛生局ガ有リマス。コノ局ハ、寮ニアルシャワーヲ管理スル局デス。

ツマラナイ業務ヲ日々淡々トコナス厚生部員達。彼等ガ居ナケレバ、寮ノ汚サガヨリ一層進ンダモノトナッテイタデショウ。将来、吉田寮生トナリウル君！ソウ君ダヨ君！僕ト一緒ニ寮ヲ綺麗ニシテイコウデハナイカ！

ト云ウ訳デ、新人募集中。

尚、厚生部ニ加入シテ頂イタ方ニハ特典ガ御座イマス（嘘）